



平成22年5月号

発行所

社団 岩手県畜産協会

〒020-0173 滝沢村滝沢字砂込389番7

☎ 019-694-1300(代)

FAX 019-694-1305

Internet Address <http://iwaite.lin.gr.jp>

E-Mail Address info@iwaite.lin.gr.jp

(定価110円)会員の購読料は会費に含まれる

印 刷 小松総合印刷会社

題字は達増知事



「岩手の畜産」発刊500号に寄せて

岩手県知事 達 増 拓 也

このたび「岩手の畜産」が、記念すべき500号を迎えることとなりました。

昭和42年の発刊以来43年の長きにわたり、畜産指導者をはじめ、畜産農家、関係機関・団体への家畜の飼養管理や経営改善、家畜衛生・防疫対策などの情報提供を通じて、本県の畜産振興に大きな役割を果たした功績は誠に大きく、これまでの関係者の御労苦に対し、心から敬意を表します。

本県においては、農業基本法に即した選択的な拡大品目として、畜産振興を挙県的に展開し、北上・奥羽山系開発事業などを梃子にしながら、関係者の一体となった取組により、全国有数の酪農、肉用牛、養豚、養鶏産地としての地位を築いてきました。この間、オイルショックや牛肉の輸入自由化、BSE(牛海綿状脳症)の発生など、幾多の困難な事態に遭遇しましたが、先人の強い意志とたゆまぬ努力のもとに、これらを乗り越え、畜産農家の所得向上に大きく貢献するとともに、食肉の処理・加工を通じた雇用の場の提供など、本県の地域経済を支える大きな役割を果たしてきました。

しかしながら、近年は、世界的な穀物需給の逼迫による配合飼料価格の高騰に加え、景気の後退による畜産物消費の減少、畜産物価格の低迷など、経営環境は厳しさを増してきております。

一方、消費者の安全・安心で高品質な畜産物へのニーズの高まり、草地や遊休農地の活用による飼料自給率の向上、さらには畜産物の輸出など、新たな取組への対応も求められてきています。

こうした中、県民の皆さん之力を結集し「希望郷いわて」を実現するため、昨年12月に「いわて県民計画」を策定しました。この計画において、畜産分野では「消費者から信頼される食料供給基地の確立」に向け、家畜の飼養・衛生管理の改善などにより生産性の向上を図るとともに、豊富な飼料基盤を活用した飼料増産や遺伝子解析技術など先進技術の導入による優良な種雄牛の造成、県産畜産物のブランド化、輸出促進などに積極的に取り組むこととしています。

また、本年3月に、国において策定された新たな「食料・農業・農村基本計画」では、これまでの我が国農業政策を検証し、「『食』と『地域』の再生」、「食料自給率の50%への引き上げ」を目標に、食料・農業・農村政策を国家戦略として位置づけ、意欲ある農業者に対する「戸別所得補償制度」の導入や消費者ニーズに適った生産体制への転換、6次産業化の推進など、農政の大転換を図るものであり、新たな基本計画に即した政策が、「いわて県民計画」に掲げる「食と緑の創造郷いわて」の実現に大きく寄与することを期待いたします。

終わりに、グローバル化が進み国際的な産地間競争が一層激しくなる中、本県が足腰の強い畜産経営を確立し、安全・安心で高品質な畜産物を安定的に供給する産地としての地位をさらに高めていくためには、これまでにも増して、関係者が一丸となって、創意工夫を凝らしながら取り組んでいくことが大切です。この発刊500号を契機に、これから畜産岩手の未来を切り拓いていくための広報誌として、さらに飛躍していくことをご期待申し上げ、お祝いの言葉といたします。



『岩手の畜産』500号発刊にあたって

社団法人岩手県畜産協会 会長理事 長澤 壽一

「岩手の畜産」は本会の広報紙として昭和42年9月に創刊して以来、平成22年5月号をもちまして500号を発行するに至りました。

これもひとえに会員団体の皆様を始め関係者の方々のご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

顧みますと、本紙が創刊された昭和42年当時は畜産の生産額が僅か163億円程度で、食料需要の質的変化から畜産振興が強く呼ばれた時であり、岩手国体が開催された昭和45年から始まった「畜産500億達成運動」、昭和51年からの「LAP運動」に連動し、大規模草地開発とも相まって、本県畜産は急速且つ画期的進展を遂げました。畜産の生産額はピーク時の平成3年には創刊当時のおよそ10倍の1,528億円となり、その後牛肉の輸入自由化等の影響で減少したものの平成20年には1,280億円と本県農業生産額の52%強を占める重要な基幹部門にまで発展しました。

この本県畜産の発展過程においては、オイルショックによる生産資材の高騰、牛肉の輸入自由化やBSE、鳥インフルエンザ等の疾病の発生、また最近では景気低迷による畜産物価格の低落や配合飼料等生産資材の高騰による畜産経営のひっ迫など、幾多の困難に直面したところですが、一方では、本県での第8回全日本ホルスタイン共進会（昭和60年）並びに第7回全国和牛能力共進会（平成9年）の開催、最近では優秀な県有種雄牛の相次いでの作出や肉用牛の増頭運動の取り組み等その時に生産者を始め関係者が生産性の向上と意欲の高揚に一致団結して取り組み、乗り越えた努力の結果あります。

「岩手の畜産」はこうしたその時の畜産の情勢が投影されているとともに、その情勢を読者の皆様が理解するために大いに役立ったものと自負しております。

500号発刊を機に、今後とも生産現場に常に眼を向け、思いをいたし、経営診断を核とした経営改善指導・飼養管理技術の向上や家畜改良の促進、自衛防疫の推進、安全良質な畜産物生産のための検査指導等各般にわたる業務の推進を通じ、農家の所得向上と畜産主産地づくりに貢献して参る決意を新たにしているところであります。

本紙の創刊号設立の趣意に「団体と農家の真に血の通った紐（じゅう）」帶の役割を果たすために発刊することとなった。近い将来県下の畜産農家すべての中に浸透して畜産農家の発言の場ともなり、名実ともに「岩手の畜産」の名に恥じないものにしてゆきたい。」

と記されています。

創刊の趣意に添うべくさらなる努力をして参る所存でありますので、畜産農家を始め関係者の皆様方にはなお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げ「岩手の畜産」500号発刊記念の言葉といたします。

もくじ CONTENTS

「岩手の畜産」発刊500号に寄せて	1	家畜の保健衛生	9
発刊500号記念祝辞	2	ティータイム	9
「岩手県畜産協会」・機関紙「岩手の畜産」の歩み	4	畜産技術情報	10
読者の皆さんから	6	平成20年度牛乳生産費	11
第74回通常総会	7	現地情報	12
畜産の研究	8	予牛市場及び家畜市場成績	12



ご宿泊・ご宴会にご利用下さい。
くすまき交流館 フラワー
TEL. 0195-66-0555 FAX. 0195-66-0511

くすまき高原牧場

乳製品の自宅宅配承っております。
ミルクハウスくすまき
TEL. 0195-66-0030 FAX. 0195-66-0031

社団法人 葛巻町畜産開発公社 〒028-5402 岩手県岩手郡葛巻町葛巻40-57-125
http://www.kuzumaki.jp TEL. 0195-66-0211 FAX. 0195-66-0755

風車が回る高原の焼肉レストラン
レストルカス袖山高原
TEL/FAX. 0195-68-2010



偉業に讃辞さらなる発展を

岩手県農業会議 会長 佐々木 正 勝

「岩手の畜産」500号の達成、誠におめでとうございます。これまで永年に亘り編集に当たられた皆様に敬意を表するとともにお祝いを申し上げます。

顧みますと、昭和40年代初頭の本県農業は、米が基幹で、畜産は有機農業的な複合部門に止まっており、その増産が緊要な課題となっていました。このため、42年に酪農近代化計画、肉用牛振興計画が相次いで策定され、大家畜振興に向けて本格的なスタートが切られましたが、この機関誌は、それと機を一にして発行されました。計画推進のバックボーンとしての決意が込められたものであったと考えております。

爾来、その時々の農業情勢や畜産施策をはじめ、生産技術・流通情報、先進事例などを広範かつタイムリーに提供し続け、畜産振興の一翼を担うとともに、様々な困難を乗り越える原動力の役割を果たして参りました。

今、改めて振り返ってみると、その内容は、本県畜産の軌跡であり、貴重な記録でもあります。この偉業に讃辞を送りたいと思います。

実は、私が就職したのがこの創刊と同じ年であり、しかも畜産部署でした。それから40年余を数えることになりますが、まさに、この機関誌とともに歩んできたことになり、自身のこれまでと重ね合わせ感慨深いものがあります。

本県畜産は、先人の英知と努力の結集によって、今日では全国極要な地位を築くに至っております。どうか、この機関誌が、今後とも畜産振興のかけがえのない情報誌として、また、関係者によすがとして引き継ぎ発行されることを切に願い、お祝いの言葉とします。



500号発刊によせて

全農岩手県本部 県本部長 小林英男

JA全農岩手県本部の事業につきましては、特段のご理解、ご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。

この度、(社)岩手県畜産協会発行「岩手の畜産」が500号を迎えることになりました。

本誌は昭和42年9月に創刊して以来、40有余年の長きにわたり、岩手の畜産振興への取り組みと発展の歴史を記す畜産専門広報誌として、常にタイムリーな話題を提供してきたことは周知のとおりでございます。

また、協会の業務は、畜産経営改善の指導、飼養管理技術の向上、家畜改良の促進及び自衛防疫の推進など多岐にわたっており、今後、一層のご指導をお願い申し上げる次第でございます。

さて、日本農業を取り巻く情勢は、さらに厳しさを増し、畜産物価格は消費者の生活防衛意識の強まりによる低価格志向が顕著となり、生産の現場では、担い手不足や生産者の高齢化といった問題をかかえ、その課題の解決が急務となっております。

また、地球規模で環境問題への関心が高まりを見せる中、農業がその生産活動を通して自然環境の保全を果たしていると言っても過言ではございません。

国民の生命を支える食と国民が安心して暮らせる環境を維持するためにも、私ども生産者がその重要な部分を担っている使命を再度自覚し、関係機関と協力して、農畜産物の安定供給に努めていかなければならぬと考えております。

最後に本県畜産のさらなる発展にご尽力されますようご祈念申し上げ、500号発刊に当つてのお祝いの言葉といたします。



母豚2,000頭の一貫経営

- ・良質豚ぶん堆肥の供給
 - ・徹底した衛生管理と優良系統豚による斉一性の高い高品質豚肉の生産・供給

「南山形養豚組合」

岩手町大字川口36-242-3

TEL. 0195-62-9087 FAX. 0195-62-9373

「岩手県畜産協会」・機関紙「岩手の畜産」の歩み

年	月	岩手県畜産協会及び機関紙「岩手の畜産」の歩み	県内等の畜産のおもな出来事
1955 (S30)	12	・ <u>岩手県畜産会設立</u> 、事務所を岩手県盛岡市吳服町(現肴町)県信連ビルに置く ・初代会長に佐藤公一氏就任(～S37)	・(S31)岩手県牛乳検査条例制定、県営検査開始 ・(S32)(株)岩手農地開発公社設立 ・(S33)第2回岩手県肉畜共進会を開催 ・(S35)第4回養豚・肉用牛共進会を開催 ・(S36)(株)岩手畜産公社設立
1962 (S37)	5	・第2代会長に八重樫利康氏就任(～S55)。	・鶏肉・羊肉の輸入自由化決定 ・岩手県畜産試験場設置
1964 (S39)	4 11	・畜産コンサルタント事業開始 ・県畜産団体組織整備協議会設置	・岩手県競馬組合設立 ・(S41)第10回乳牛系統群共進会を盛岡市で開催
1967 (S42)	9	・ <u>「岩手の畜産」発刊</u>	・岩手県酪農近代化計画・岩手県肉用牛振興計画策定 ・岩手県畜産指導協会設立、岩手県畜産指導協会主催の第11回岩手県肉畜共進会を開催 ・(S43)(社)岩手県肉牛生産公社設立。 岩手県畜産指導協会主催の第12回岩手県肉用牛・豚・乳牛系統群共進会を開催 ・(S44)岩手県畜産指導協会主催の第13回岩手県乳牛共進会、肉用牛・豚共進会を開催
1970 (S45)	1	・畜産団体整備のための畜産問題懇談会開催	・岩手県畜産課が畜産、畜政課に分離 ・岩手県畜産500億達成運動始まる ・(社)岩手県肉用牛価格安定基金協会設立 ・岩手県畜産指導協会が家畜人工授精メインセンター設置
1971 (S46)	4 9	・各畜産団体が岩手県畜産会へ合併継承(岩手県畜産指導協会、岩手県興農協会、岩手県草地協会、岩手県畜産農業協同組合連合会) ・岩手県畜産会主催の第15回岩手県畜産共進会(乳牛・肉用牛・豚)を開催(以後毎年開催)	・第2次酪農近代化計画策定 ・豚肉の輸入自由化決定 ・(社)岩手県獣医師会設立 ・(社)岩手県農地管理開発公社設立 ・(株)岩手畜産流通センター設立
1972 (S47)			・(社)岩手県馬事振興会設立 ・(社)家畜畜産物衛生指導協会設立 ・岩手県ブロイラー事業協同組合設立 ・(社)家畜改良事業団盛岡種雄牛センター開設 ・(S48)オイルショック(物価高騰)
1980 (S55)	4 5	・本会事務所を岩手県産業会館から農林会館へ移転。 ・第3代会長に鈴木進氏就任(～S58)	・(S50)畜産500億達成運動終了(粗生産額725億円)。 (社)岩手県配合飼料価格安定基金協会設立 ・(S51)岩手県LAP運動スタート。 北上山系開発田代大川地区着工 ・(S52)第3次岩手県酪農近代化計画策定 ・(S53)(社)岩手県畜産物価格安定基金協会設立 ・(S55)ランドレース種イワテハヤチネ系統認定
1982 (S57)	3	・「岩手県畜産会25年史」発行	・(S56)第4次酪農近代化計画策定 ・日本短角種一貫生産推進協議会設立
1983 (S58)	5	・第4代会長に小野寺軍蔵氏就任(～S62)	・岩手県酪農・肉用牛生産近代化計画策定
1985 (S60)	3	・「岩手の畜産」を創刊号—100号、101号—200号の2分冊として複製合本し発行	・第8回全日本ホルスタイン共進会岩手県で開催、未経産の部で名誉賞受賞 ・日本短角種振興協議会設立。岩手県養鶏協会設立 ・アカバネ病大流行(発生頭数6,267頭)
1987 (S62)	5	・第5代会長に岩持静麻氏就任(～H10)	・岩手県養豚協会設立

年	月	岩手県畜産協会及び機関紙「岩手の畜産」の歩み	県内等の畜産のおもな出来事
1988 (S 63)	3	・「岩手の畜産 戦後50年の歩み」を編さん	・県営の牛乳検査業務を(社)家畜畜産物衛生指導協会が受託。 ・(H 1)第2次岩手県酪農・肉用牛生産近代化計画策定 ・(H 2)いわて牛普及推進協議会設立、「いわて牛フェア」銀座で開催。酪農ヘルパー制度発足。岩手短角牛産直開始(さいたまコープ、いなげ屋) ・(H 3)牛肉・オレンジの輸入自由化
1993 (H 5)	3	・「岩手の畜産」201号—300号複製合本し発行。	・ガットウルグアイラウンド農業合意 ・全国枝肉共励会で前沢牛4年連続6度目の名誉賞受賞 ・未曾有の大凶作「作況指数30」農作物被害852億円 ・(H 8)新盛岡競馬場オープン。英国で牛海面状脳症(BSE)騒ぎ。種山肉用牛改良センター開所。県南家畜市場完成 ・(H 9)第7回全国和牛能力共進会岩手県で開催、南部牛育種組合が内閣総理大臣賞受賞
1998 (H 10)	3 5 5	・岩手県ホルスタイン改良同志会の事務局を本会が受託 ・第6代会長に瀬川理右エ門氏就任(～H 16) ・本会事務所を農林会館から旧岩手県畜産試験場へ移転	・中央家畜市場完成 ・県農業研究センター畜産研究所開所 ・小岩井農場でクローン牛相次いで誕生 ・英国からの牛肉輸入禁止
1999 (H 11)	6 11	・岩手県家畜人工授精師協会の事務局を本会が受託。 ・養豚3団体が統合し岩手県養豚振興会設立、事務局を本会に置く(岩手県養豚協会、岩手県養豚連絡者協議会、岩手県養豚経営者会議)	・家畜排せつ物法施行、堆肥舎設置等を義務付け
2000 (H 12)	5	・(社)岩手県馬事振興会の事務局を本会が受託。	・宮崎県で国内92年ぶりの口蹄疫発生、2例目が北海道でも発生。 ・「畜産経営環境向上国際シンポジウム」岩手県で開催 ・(H 13)千葉県で国内初のBSE発生。岩手畜産流通センターでBSE全頭検査開始。 (社)岩手県農畜産物価格安定基金協会設立
2002 (H 14)	4 4 4 4 4	・「岩手の畜産」第416号からB5判をA4判に変更 ・「岩手の畜産」301号—400号複製合本し発行。 ・本会事務所を旧盛岡家畜保健衛生所へ移転 ・乳牛(ホルスタイン、ジャージー)・肉用牛(黒毛和種、日本短角種)・種豚の家畜登録業務を全農岩手県本部から本会へ移管 ・岩手県乳用牛群検定推進協議会の事務局を受託。	・「いわて牛トレーサビリティーシステム」運用開始。 ・雪印食品の牛肉偽装事件の影響で岩手食肉加工(江刺市)、雪印花巻工場が閉鎖 ・全国農業協同組合連合会岩手県本部発足 ・いわて農林水産振興協議会設立
2003 (H 15)	7	・(社)家畜畜産物衛生指導協会と(社)岩手県畜産会が統合、名称を「(社)岩手県畜産協会」と改める	・アジア地域や北米で高病原性鳥インフルエンザ相次いで発生 ・カナダ・米国でBSE発生、牛肉輸入禁止 ・異常気象により農作物被害330億円、戦後5番目の被害
2004 (H 16)	3 6	・家畜登録業務のうち肉用牛を全農岩手県本部へ返還 ・第7代会長に小笠原一行氏就任(～H 20)	・国内で79年ぶりの高病原性鳥インフルエンザが山口県で発生 ・高病原性鳥インフルエンザの発生を受け県が「食の安全安心関係危機管理対応方針」策定 ・(H 17)「岩手県短角牛振興協議会」が畜産大賞(中央畜産会主催)で最優秀賞を受賞
2006 (H 18)	10	・岩手県畜産共進会第50回記念式典並びに県畜産共進会を開催	・(社)葛巻町畜産開発公社が畜産大賞で大賞を受賞。 ・配合飼料価格が秋以降バイオエタノール向け需要の増加等から高騰
2007 (H 19)	4	・東北6県の生乳検査業務を東北生乳販売農協連から本会が受託。	・地域団体商標制度で「いわて短角牛」が商標登録 ・(社)葛巻町畜産開発公社が日本農業賞で大賞受賞
2008 (H 20)	6	・第8代会長に長澤壽一氏就任。	・JA岩手ふるさと胆沢牧野が畜産大賞で優秀賞受賞 ・(H 21)粗飼料多給の「プレミアム短角牛」本格販売実施。「いわて肉用牛増頭運動推進協議会」設立
2010 (H 22)	5	・「岩手の畜産」500号を発刊 ・「岩手の畜産」401号—500号複製合本し発行	

読者の皆さんから

今後に向けて

(社)岩手県農畜産物価格安定基金協会
馬場明雄

県に奉職当時、施策立案や予算要求等の際、必ず目を通すのは統計調査資料であったが、最近、この調査が次第に後退していることが気になっている。これまで同様の調査は無理であっても、減

少する情報量を補う何らかの方法が必要ではなかろうか。その一つとして、貴会を核として、畜産関係団体が日常業務を進める中で得る情報を加工し、提供することを提案したい。例えば、当協会では蓄積されている情報を活用し、未だ一部ではあるが、独自のサービス業務に取組んでおり、各団体から提供される情報も本紙面に継続的に掲載すれば、県内の動きが十分把握でき、貴重な統計資料になるものと考える。

明日への扉を開く岩手の畜産に期待

花巻市 山里栄実

「岩手の畜産」創刊500号達成おめでとうございます。先達の方々から引継がれ、読者に生産技術を始め研究成果や諸情報等伝え続けてこられたことに敬意を表するものです。

農業を営みながら担い手育成に係わる者一人

として畜産分野に於ける技術改善で参考になることが多々あり、皆さんの取り組みや活動状況もわかりますし励みにもなります。

農畜産物の供給基地宣言の岩手。大人の視点で、大人の権限でこれから担い手、若人の芽を摘むことのないように。そしてこれからも攻めと守りの農業を展開していかなければならない岩手です。取材には御苦労もあると思いますが今後も様々な情報を寄せ下さい。

今後もより良い情報を

葛巻町 酪農家 高宮一明

岩手の畜産500号発行おめでとうございます。私は、酪農を後継し43年に成ります。これまで長年

にわたり経営改善に多大な情報をいただきめまぐるしく変動する情勢に対応してまいりました。今後も最新の情報を参考にしながら生産性の向上、高品質乳の生産に努めてまいりたいと思います。今後も更に継続されまして情報提供をいただきまますよう切望します。

全国に向けてさらに発信を

(有)キロサ肉畜生産センター
代表取締役 櫛田光男

「岩手の畜産」500号おめでとうございます。毎回様々な情報・話題を興味深く読ませていただいております。

岩手の畜産物生産量は牛肉・牛乳・豚肉・鶏肉・鶏卵すべてが全国上位にランクされています。生産者のこだわりある熱意と岩手の豊かな土地柄が醸し出す「安心・安全・おいしさ」においても、全国の畜産岩手としての位置づけをさらにアップさせる情報共有広報誌として発展されるようお祈りいたします。

岩手の畜産が発刊されてから40余年

三浦 賢良

かつて、岩手県は馬産地として名声を博し、農用馬の糞（せり）市も春の軽米町、秋の盛岡市と遠野市でそれぞれ開催され、150頭余りの農用馬や土産コ・ポニーが上場され、購買客も九州や北海

『豊富な取扱品目で、よりお役に立てる企業を目指しています。』

2010年4月より、『丸善薬品株式会社』から『MPアグロ株式会社』へ社名変更いたしました。

動物用医薬品・畜産用資材・器材・医療機器・医薬品
MPアグロ株式会社

本社：北海道北広島市大曲工業団地6-2-13
盛岡支店：TEL 019(638)3291 一関支店：TEL 0191(23)2756

道等からも数多く参集し、鑑定人の“お代(だい)”の掛け声で価格が競り上げられ“ねがあ～”の声の後に落札される。馬文化と言うが風物史と言えたし地域の祭りの様な賑わい、そしてほろ酔いと千鳥足の姿が懐かしい。しかし、肉用素馬が米国等から年間4～5千頭を越える導入が繰り返され

た事と、輓曳競馬の低迷が加わり農用馬生産の伸び悩みが続き、九州等の大口購買客も姿を見せなくなり、上場する馬も土産コやボニーの数が多くなる一方で、上場頭数も50頭と減少し市場運営が困難となってきた今日、往時の午の嘶きと賑わいが本当に懐かしい。

第74回通常総会

岩手県畜産協会の第74回通常総会が3月3日盛岡市の「産業会館」で開催されました。

長澤会長は冒頭の挨拶で、「酪農は乳価がkg当たり10円値上げしたが消費低迷で減産が見込まれており、肉用牛も子牛価格、枝肉価格とも軟調で、肥育牛に対する補てん金が連続して支払われるなど厳しい状況にある。しかしながら畜産は本県の農業生産額の51%を占める基幹産業であり、協会としても足腰の強い経営を構築するため努力していきたい。」と述べました。また来賓の農林水産部佐々木和博技監は「今開催中の県議会でも、農家への個別所得補償を始め農業に関する質問が多く出されている。県としても今後さらに飼料基盤の整備、飼養管理の向上等を通じて畜産経営の安定を進める。協会の果たす役割に期待する。」と祝辞を述べました。

続いて21年度の一般事業および特別会計事業の追加、廃止およびそれらに伴う補正予算が提案され承認可決されました。

その後22年度の事業計画と一般会計165,081千円、特別会計2,094,333千円、合わせて2,259,414千円の予算および本会会費23,539千円と徴収方法等すべての議案が原案通り承認されました。

基本方針

本県の畜産は、農業産出額構成比の51%を占める基幹部門であり、これに畜産物加工業等関連産業の生産額を合わせると地域経済の維持発展の主要な原動力となっている。

このことを踏まえ、本会が引き続き畜産主産地形成と維持発展の一翼を担っていくため、岩手県



が定めるいわて県民計画・酪農及び肉用牛生産近代化計画・家畜及び鶏の改良増殖計画及び農協等生産者団体が進める諸対策について関係機関・団体と緊密な連携のもとで当協会の総力を結集して、畜産経営や飼養管理技術の指導、家畜改良及び自衛防疫等の推進を図るとともに、安全、かつ、良質な畜産物の生産のための検査、指導を果敢に進め、世界的な経済不況が続くなかにあって、厳しい経営環境下にある本県の畜産振興に寄与する。

重点推進事項

- 認定農業者等主業型経営体を対象とした経営診断・経営技術指導及び最新技術情報の提供・研修会の開催。
- 家畜防疫等家畜衛生対策の推進。
- 東北ブロック生乳検査業務の円滑な推進。
- 家畜自衛防疫事業、家畜登録（乳用牛・豚）事業、家畜人工授精用精液流通調整事業、生乳検査事業、肉用牛肥育経営安定対策事業、優良繁殖雌牛更新促進事業等の実施に伴う各種情報等の効率的活用。
- 本県肉用牛の改良増殖及びいわて肉用牛増頭運動等生産振興に寄与。

今までこれからも。「生命の未来」のために尽くしたい。

小田島商事株式会社

プレミックス工場 0198-26-4726 (代) 家畜衛生食品検査センター 0198-26-5375 (代) 大館(営)、横手(営)、青森(営)、古川(営)、山形(営)、酒田(出)、福島(営)、新潟(駐)、旭川(営)、札幌(営)、帯広(営)、釧路(出)

<動物用医薬品・ワクチン・プレミックス・器具機材>

本社 〒025-0311花巻市御町66番地 TEL 0198-26-4151代
花 卷(営) 0198-26-4700代 大船渡(営) 0192-26-4740代
盛 岡(営) 019-638-9551代 八戸(営) 0178-34-2284代

一般会計事業種目と予算額

- 1 独自事業費 (4,750千円)
 岩手の畜産発行事業
 職員技術研修事業
 畜産技術指導促進事業
 北海道・東北畜産協会研修事業
- 2 補助事業費 (60,749千円)
 岩手県補助事業
 地方競馬全国協会補助事業
 農畜産業振興機構補助事業
 中央畜産会補助事業
 全国肉用牛振興基金協会補助事業
- 3 受託事業費 (12,335千円)
 岩手県受託事業
 中央畜産会受託事業
 全国肉用牛振興基金協会受託事業

- 日本養豚協会受託事業
 畜産近代化リース協会受託事業
- 4 負担金事業費 (16,406千円)
- 5 管理費 (70,841千円)
- 合計 165,081千円

特別会計事業種目と予算額

- 1 家畜人工授精用精液流通調整事業 (71,276千円)
- 2 肉用牛肥育経営安定対策事業 (1,163,328千円)
- 3 優良繁殖雌牛更新促進事業 (459,694千円)
- 4 家畜登録事業 (35,091千円)
- 5 家畜自衛防疫事業 (274,579千円)
- 6 生乳検査事業 (90,365千円)

合計 2,094,333千円

畜産の研究 (69)

乾物収量性に優れた 飼料用トウモロコシ極早生品種 「ニューデント95日(DKC34-20)」

当研究所では本県の気象に適した飼料用トウモロコシを選定するために、各品種の生育特性・耐病性・収量性などを調査しています。今年度は15品種について調査した結果、極早生品種の「ニューデント95日(DKC34-20)」が3年連続して優れた成績であったことから、平成22年度より新たに岩手県の推奨品種となりますので紹介します。

本品種はフランスで育成されたデント×デント

の単交配品種で、平成19年より全国販売が開始されています。播種から黄熟期までの積算温度は2,238°Cで、所要日数は116日とディアHTより3日、おおぞらより2日遅く、本県では極早生の中～晩に分類されます。耐病性はすす紋病に対して強、ごま葉枯病に対して中程度と評価され、根腐病、すじ萎縮病は試験を行った3年間を通じて発生が見られませんでした。また黒穂病、紋枯病の発生もわずかでした(表1)。乾物収量は1,727kg/10aと標準品種を大きく上回ります。

栽培適用地帯は県下全域、適正栽植本数は8,000本/10aです。栽培管理については牧草・飼料作物生産利用指針を基本として下さい。

表1 障害及び病害

倒伏率	病害抵抗性		罹患率			
	すす紋	ごま葉枯	根腐	黒穂	紋枯	すじ萎縮
発生率、罹病程度評点値	0.0点	2.3	3.3	0.0%	1.4%	1.1%
評価	無	強	中	無	微	微

※1 発生率、罹病程度評点値は3年間の平均数値。

※2 すす紋病及びごま葉枯れ病の罹病程度評点値は無を1、甚を9とした。

(岩手県農業研究センター畜産研究所 尾張 利行)

●共進会用馬・乳牛用頭絡手綱・馬衣・乳牛用新型牛衣
 ●牛馬手入用毛ブラシ
 ●肉牛用牛衣
 ●根ブラシ・金ぐし
 ●普通乗鞍・ウエスタン鞍・ポニー用鞍等乗馬具・鞍馬具一式・畜犬具
 ●電気工事用革ケース・カバン・ズック製袋カバン・リュックサックバンド・安全帯
 ●せんてい鉄ケース他造園工具ケース類
 ●その他特別御注文のカバン等承って居ります

創業102年品質第一手造りの店
 岩手県指定店 塩釜馬具店
 盛岡市大沢川原2丁目2の32 TEL 019-622-5393 (労働福祉会館隣)

家畜の保健衛生 (69)

アカバネ病の予防について

アカバネ病はヌカ力等の吸血昆虫によって媒介される伝染病です。妊娠牛が感染した場合は、主に流産・早産・死産や、胎子に先天性異常（神経症状、体型異常）がみられますが、子牛や育成牛では後軀麻痺等の神経症状を起こす事もあります。さらに、乳用牛では異常産に伴う乳量減少のため、酪農経営に悪影響をもたらす病気でもあります。1985年に本病が全国的に大流行した際、本県

では約6,500頭の異常産が発生しました。平成21年度における県内のワクチン接種率は、乳用牛で22%、肉用牛で49%と低下しており、アカバネウイルスが本県に侵入した際、大流行する恐れがあります。本病はワクチンにより確実に予防できる病気であり、地域ぐるみのワクチン接種により予防効果が一層増加することが知られています（接種率70%が流行を防ぐ目安）。ヌカ力等の活動が活発化する前の4月から6月末頃までがワクチン接種の適期ですので、忘れずに接種願います。

（岩手県中央家畜保健衛生所）

TEL 019(688)4111

豚肉とイスラム教（2）



先号に続いてアラブ首長国連邦（以下UAE）の話を。

UAEの首都であるアブダビなどという国、娘夫婦が赴任するまでは何処にあるのか全く見当もつかなかった。実は、日本にとって石油の輸入がサウジアラビアに次いで2番目に多い国であるとか、一夫多妻の国で妻は4人までよろしいとか分からぬことが分かるようになった。

また、国産車のないアブダビでは7～8割が日本車で、街にはトヨタカローラのタクシーや日本語で「トヨタ」と大書きされたトラックが走りまわっていた。まちを歩くと「アーユーチャイニーズ？」とよく聞かれたが「ノー、ジャパンニーズ」と答えると即座に「オー、トヨタ、ニッサン、ビッグ」と笑顔の答えが返ってくるなど日本車の人気は高い。

この国は、石油が出るまでは大変貧しい国であったために、幸か不幸か欧米の植民地にならなかつたことが幸いし、40年ほど前に石油が産出されてから状況は一変した。

砂漠のど真ん中に高層ビルが立ち並び、税金、医療費、教育費はすべて無料。国立大学は、現地人の子弟にはこすかいで与えて学習環境を整え人材育成に力を入れており、やっと高校授

業料が無償化された日本とは大違いた。

ところでイスラム国家であるUAEで豚はいるのかというお話。

一般に飼われていることはもちろんスーパー等で豚肉をお目にかかることは決してない。畜産として飼われているのはラクダとヤギぐらいだ。

ところが偶然にも、娘夫婦が依然住んでいたマンションの隣の小さな雑貨店の冷蔵庫の片隅に紛れもない豚肉が置いてあったのだ。もちろん輸入品でインド人居居住区だったために豚肉を置いていたものと思われる。

モールでの買い物のたびに、畜産人のはしぐれとして肉売り場をチェックしたが、日本では輸入が禁止されているブラジル産の牛肉が売り場を占めていた。ブラジル産は、オーストラリアやニュージーランド産と比べて値段は安いものの味が悪いと評判はいまいちだった。

イスラム教は、飲酒をかたく禁止しているお国柄だが、豚肉と同様にアルコール類は一切販売禁止だ。当然、飲み屋もない。レストランでも一般的にはお酒は置いていない。日本のように仕事帰りにちょいと一杯などということは決してないのだ。

日本では、あんなに飲まずにはおれないほどの酒飲みだったはずが、飲酒の習慣がないお国柄では、それなりに慣れてしまうから（飲まなくて済む）不思議なものだ。

お酒をやめたい方は、イスラム圏へいって住むのもいいのでは。（S）



社団法人 家畜改良事業団盛岡種雄牛センター

家畜改良事業団では、牛凍結精液の他、全国的な評価が高まっている体外受精卵（IVF卵）、発情周期の同調鈍性発情・卵巣停止に効果を発揮するイージーブリード、凍結精液の保存容器（MVE社製）を取扱っております。ご利用についてのお問い合わせ・パンフレットのご請求は、盛岡種雄牛センターまでお願い致します。

〒028-4134 岩手県盛岡市玉山区大字下田字柴沢301-5
TEL 019-683-2450 FAX 019-683-1334 <http://liaj.or.jp/morioka/>

畜産技術情報 (23)

牧草・トウモロコシ

- 牧草：適正な春施肥を心がけましょう。
- トウモロコシ：地域に合った品種の選定をもとに、栽培計画を立てましょう。

1. 牧草

(1) 草地管理

牧草は平均気温が5℃になった頃から生育を開始します。

施肥作業は圃場が乾いてから行うようにしましょう。圃場が乾いていないと、機械が圃場に入った際に草地を痛める原因になります。

また、草丈の短いこの時期に、裸地等草地の状況を確認しておきましょう。

2. 飼料用トウモロコシ

飼料用トウモロコシは単位面積あたりの収量が高く栄養価にも優れる飼料作物です。

近年、配合飼料価格が高騰していることからも、飼料用トウモロコシの自給はますます重要な意味となりました。

地域の気象条件に適合した品種を選定し、安定生産に努め、飼料自給率の向上を図りましょう。

(1) 品種の選定

トウモロコシの栽培は、品種の選定が最も重要な要素です。

栄養収量と発酵品質の面からも「黄熟期」に収穫することが望まれます。したがって、降霜前に黄熟期に達する品種を選定しましょう。

栽培面積が多くなる場合には、熟期の異なる品種を組み合わせて収穫期間の延長を図りましょう。

(2) 適正な堆肥の施用

家畜ふん尿の多量投入はトウモロコシの硝酸態窒素含量を高めるほか、ミネラルバランスも

崩れ、家畜の栄養上問題となります。10a当たり3~4tの施用としましょう。

(3) 霜害に注意

トウモロコシの発芽は約1週間ですので、予想される晩霜の1週間前が播種の早限です。しかし、晩霜は年によって異なりますので、これまで度々霜害を被っている圃場では覆土を5cm程度に厚くするなどの対策も講じましょう。

(4) 栽植本数

密植すると雌穂が小さくなりTDN含量が低下するだけでなく倒伏にも弱くなります。10a当たりの適正栽植本数は、早生品種で7,000本、中生品種で6,500本、晚生品種で6,000本程度です。

(5) 【クマ対策】

県内各地において、トウモロコシに対するクマの被害（倒伏と収穫量の減少）が見られます。

被害を軽減させるための対策としては、電気牧柵の設置が最も効果的です。

電気牧柵は、トウモロコシが出穂する時期にはその設置を完了させている必要があるので、7月中旬に設置します。電気牧柵は一般に3段張りとし、下から20,40,70cmとします。この場合、下草との接触により漏電の可能性も高まる場合もあり、30,60,90cmで設置している地域もあります。

電気牧柵を設置する場合、電気牧柵を設置するためのスペースと、トウモロコシへの誘惑を断ち切るためのスペース、見通しを良くしてトウモロコシ畠へ侵入しづらくするためのスペース（緩衝帯）、さらには、電気牧柵に異常がないかを見回るためのスペースとして、可能な限り、圃場の周辺から3m程度を確保します。

圃場周辺から3m程度（4畝分）離して、トウモロコシを播種し、そのスペースについても、雑草等が繁茂しないよう管理します。

（中央農業改良普及センター滝沢駐在 019-688-5525）



価格安定事業を通して
畜産経営のお手伝い。

社団法人 岩手県農畜産物価格安定基金協会

〒020-0024 岩手県盛岡市菜園一丁目4番10号 第二産業会館2階

TEL 019-651-9634 FAX 019-624-5727

ホームページ：<http://www.isop.ne.jp/iwnkikin/>

— 平成20年度

牛乳生産費 (岩手県) —

(平成22年3月公表)

1. 生産費

(1) 生産費の動向

搾乳牛通年換算1頭当たりの生産費(副産物価額差引)は757,665円で前年に比べ34,747円(4.8%)増加し、全算入生産費は809,571円で33,105円(4.3%)増加した。

(2) 主要費目の動向

ア 飼料費は331,394円で、前年に比べ5,557円(1.7%)増加した。

イ 乳牛償却費は89,134円で、前年に比べ14.3%上昇した。

ウ 労働費は222,879円で、前年に比べ5.2%上昇した。これは搾乳や飼養管理の労働時間が増加したことによる。

2. 収益性

(1) 搾乳牛1頭当たり粗収益は平均乳価が6.3%上昇したことなどにより、昨年より3.4%増加し、676,513円になった。

(2) 搾乳牛1頭当たり所得は64,055円で、前年に比べ27.8%と大幅に増加した。これは、粗収益が増加したことによる。

〔利用上の注意〕

1. 調査期間は、平成20年4月から平成21年3月までの1年間である。

2. 搾乳牛通年換算1頭当たり生産費は、1戸当たり生産費を年間月平均搾乳牛(乾乳中の牛を含む)飼養頭数で除して算出したものである。

3. 「収益性」の所得及び家族労働報酬の算出方法は、以下のとおりである。

- (1) 粗収益=主産物価額+副産物価額
- (2) 生産費総額=費用合計+支払利子+支払地代+自己資本利子+自作地地代
- (3) 所得=粗収益-(生産費総額-(家族労働費+自己資本利子+自作地地代))
- (4) 1日当たり所得=所得÷家族労働時間×8時間(1日換算)
- (5) 家族労働報酬=粗収益-(生産費総額-家族労働費)
- (6) 1日当たり家族労働報酬=家族労働報酬÷家族労働時間×8時間(1日換算)

※以下「去勢若齢肥育牛」「子牛」も利用上の注意は同じ。

3. 牛乳生産費調査の結果

(搾乳牛1頭当たり)

(単位:円)

物	財	費	平20年度	平19年度
種付料		584,008	565,884	
飼料費		11,881	11,912	
うち 流通飼料費		331,394	325,837	
うち 牧草放牧採草費		254,757	255,715	
敷料費		76,637	70,122	
光熱水料及び動力費		5,782	6,185	
その他諸材料費		27,290	24,470	
獣医師料及び医薬品費		3,212	4,008	
賃借料及び料金		20,497	25,033	
物件税及び公課諸負担		13,940	10,495	
乳牛償却費		7,199	7,239	
建物費		89,134	77,986	
うち 債却費		30,670	30,065	
自動車及び農機具費		26,408	24,351	
うち 債却費		40,761	40,476	
生産管理費		23,994	24,027	
労働費		2,248	2,178	
うち 家族		222,879	211,918	
費用合計		212,268	190,324	
副産物価額		806,887	777,802	
生産物価額差引		49,222	54,884	
支払利子・地代算入		757,665	722,918	
費用全算入生産費		775,504	739,445	
		809,571	776,466	

4. 経営及び生産概況

(搾乳牛1頭当たり)

区分	単位	平20年度	平19年度	
1戸当たり	農業就業者	人	2.4	2.5
	牧草栽培地面積	a	1,044	926
	搾乳牛飼養頭数	頭	25.7	24.5
1頭当たり	実搾乳量	kg	7,407	7,388
	乳脂肪分	%	3.90	3.97
	乳脂肪分3.5%換算乳量	kg	8,257	8,383
	生乳価額	円	627,291	599,256
	100kg当たり平均乳価	円	7,597	7,148
～労働時間計(うち家族)	hr	163.8(155.4)	156.2(140.8)	
1頭労働当たり	飼料の調理・給与・給水	円	46.3	44.9
～時間	敷料の搬入・厩肥の搬出	円	16.6	15.4
～	飼育管理	円	11.1	10.0
～	搾乳及び牛乳処理	円	70.8	66.0
～	生産管理	円	1.5	1.4
～	粗収益	円	676,513	654,140
1頭当益	生産費総額	円	858,793	831,350
～	所得	円	64,055	50,135
1日当たり	1日当たり所得	円	3,298	2,849
性	家族労働報酬	円	29,988	13,114
	1日当たり家族労働報酬	円	1,544	745

〔資料:農林水産省東北農政局岩手農政事務所「畜産物生産費統計〕

○草地造成地用に
草地484号 14-28-14
チツ リンサン かわ

○苦土の補給に
草地211号 20-10-10-5
チツ リンサン かわ 外

○海藻粉末配合で草質と収量の向上に
乳質向上1番草用 20-8-5-3
乳質向上2番草用 8-14-0-4
乳質向上3番草用 20-8-0-3
乳質向上礼肥用 10-5-5-0

チツ リンサン かわ 外

豊かな大地を育む
B.B.・人肥料
くみあい肥料株式会社

〒025-0312 花巻市二枚橋第5地割146番地 TEL 0198-26-3313 FAX 0198-26-3316

地域の話題をお届けします

盛岡
地域

現地情報

農業就業への関心が高まって
います

盛岡地方振興局管内の関係機関で組織する盛岡地方農業農村振興協議会(会長:盛岡市長)では、行動計画「アクションプラン」を毎年策定して、新規就農者の確保と育成に取り組んでいます。このプランは平成17年度から策定、実践を行っており、年間の新規就農者確保目標数51名に対し、本年度は1月末現在で目標を大きく上回る81名の新規就農者を確保(昨年度76名)する成果を挙げています。

さて、その成果のとおり、雇用情勢悪化などの影響もあって、就農相談や問い合わせの件数が年々増加しています。特に新規参入者の相談が増えていますが、“失業後の職業としての選択肢”といった相談も多く、“即就農”とはならない場合がほとんどです。

農業や就農への関心の高まりは大歓迎ですが、最近の“就農を歓迎する!”報道がやや過熱気味で、資金や研修、土地探しなどの準備期間の必要性などが就農志向者に十分に伝わっていないままの相談が多く、関係機関として十分な情報提供や説明が足りない事を反省させられる場面も多くあります。

現在、管内では約20名の就農希望者が、就農への準備として国や農業公社などの事業を活用して農家の長期研修を行っています。

一方、就農後の定着や育成対策にも力を入れており、支援を希望する約100名の新規就農者や就農候補者へ、月1回以上の訪問相談活動を行っています。就農後の安定経営を支えるために、増え続ける新規就農者へのフォローアップ体制が課題となっています。



124名が参加！新規就農者や就農候補者、農業関係の学生が大集合！

盛岡地方農業農村振興協議会事務局員
(盛岡農業改良普及センター) 三浦 晃弘

畜舎施設及び内部設備は当社にご用命を！

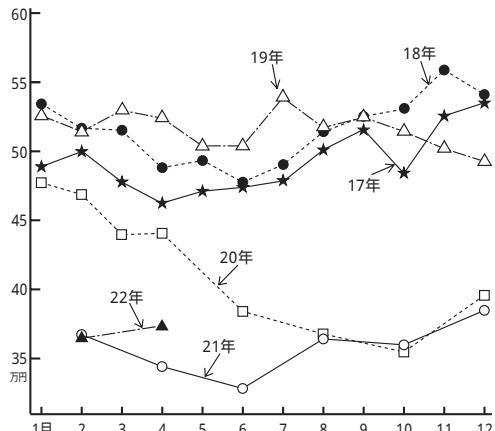
畜舎設計から畜舎換気、給水設備、ストール各種設計施工。
搾乳、糞尿、給飼設備のトータルプランナー。

平成22年4月和牛子牛市場成績〈税込〉

(全農岩手県本部)

市場 (月日)	上 地 域	性 別	頭数	最 高 (円)	最 低 (円)	平 均 (円)	平均 体重 kg当 単価
県南 4/7 (水)	胆 氣 江 仙	♀	206	542,850	201,600	353,452	277 1,278
		♂	242	615,300	106,050	382,564	307 1,247
		計	448	615,300	106,050	369,178	293 1,260
県南 4/8 (木)	磐 井	♀	183	761,250	115,500	336,034	274 1,228
		♂	195	655,200	168,000	392,183	306 1,281
		計	378	761,250	115,500	365,000	290 1,257
中央 4/14 (水)	岩 手 郡 八 幡 平 山	♀	218	590,100	107,100	318,376	269 1,183
		♂	2	346,500	183,750	265,125	337 787
		計	275	573,300	224,700	415,090	295 1,407
		計	495	590,100	107,100	371,891	284 1,310
中央 4/15 (木)	盛 紫 花 北 遠	♀	211	585,900	216,300	316,692	275 1,152
		♂	283	601,650	210,000	413,184	307 1,345
		計	494	601,650	210,000	371,970	293 1,268
中央 4/16 (金)	宮 二 久 慈	♀	169	657,300	246,750	347,159	279 1,246
		♂	252	596,400	201,600	420,525	304 1,384
		計	421	657,300	201,600	391,074	294 1,332
合 計		♀	987	761,250	107,100	333,539	274 1,215
		♂	2	346,500		265,125	337 787
		計	1,247	655,200	106,050	405,862	304 1,337
		計	2,236	761,250	106,050	373,812	291 1,286

子牛価格の推移



平成22年3月岩手県内指定家畜市場取引成績

(社)岩手県農畜産物価格安定基金協会

区分	指 定 肉 用 子 牛		
	頭数	金額	平均価格
黒毛和種	1,577	566,190,450	359,030
褐色和種	4	705,600	176,400
日本短角種	34	7,005,600	206,047
ホルスタイン種(離を除く)	1	54,600	54,600
交雑種・乳	9	1,506,750	167,417

(注) : 金額、価格は消費税込み

東北オリオン株式会社 岩手営業所

盛岡市月が丘三丁目40-28
TEL 019(641)4545 FAX 019(641)3037